

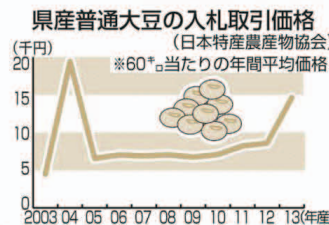
年	組	名前
---	---	----

大豆価格 例年の2倍

13年産 全国的な不作で



豊後大野市の大豆畑。2013年産の県産大豆は価格が大幅に上昇した＝2日



県産普通大豆の入札取引価格 (日本特産農産物協会)

県産の主力品種は豆腐の原料に使われる「フクユタカ」の大豆。一気に高価格となった。県によると、13年産の作付は前年よりやや増える見込みだが、国の水田政策の見直しで大豆栽培のメリットが薄れていることもあり、このまま増える流れになるか不透明だ。

政策見直し、メリット薄れ

作付け拡大は不透明

2013年産の県産普通大豆の入札取引価格(60%当たり、年平均)は1万4千円台となり、全国的な不作を背景に例年の2倍の水準になった。近年、国産大豆の需要は堅調なもの、県内は担い手不足などで生産量が減少している。14年産の作付けは前年よりやや増える見込みだが、国の水田政策の見直しで大豆栽培のメリットが薄れていることもあり、このまま増える流れになるか不透明だ。

県によると、13年産の作付面積は1570haで、2002年(3540ha)を境に減少が続いていた。14年産は、市町村などへの聞き取りで12年ぶりに増加に転じる見込み。宇佐市で8・5haを栽培する「橋津営農組合」の郷(の)伸延旨理事(58)は「価格が高まり、作付けを増やしている。他の作物に比べて生産コストが低く、

全国の国産大豆の生産量は、2013年産が19万9千haで前年から約3万6千ha減少した。作付面積は09年の14万5400haから13年は12万8800haに減っている。

(2014年9月6日朝刊5面)

2013年産の大分県産普通大豆の入札取引価格は1万4千円台となり、全国的な不作を背景に例年の2倍の水準になりました。

①県産の主力品種「フクユタカ」の13年度の平均価格はいくらでしょう。この品種は主に何に使われますか。

.....

.....

.....

.....

③大豆の大分県内の産地はどこでしょう。調べてみよう。

②作付けが増えるのが「不透明」な理由はなぜでしょう。

.....

.....

.....

.....